薬剤耐性対策に係る茨城県の普及啓発事業

茨城県衛生研究所
○吉田友行，熊本有美，永田紀子，柳岡利一

1　はじめに

薬剤耐性（Antimicrobial Resistance，以下 AMR）とは，抗菌薬（抗生物質，抗生剤）が病原菌に対して効かない，もしくは効きにくくなることである。AMR が拡大した背景として，抗菌薬の不適切な使用等が指摘されている。何も対策を取らなかった場合，2050 年には AMR によって年間 1,000 万人が死亡し，がんによる死亡者数を超えると予想されており，世界が抱える大きな問題である。そこで 2015 年の世界保健総会で「薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン」が採択され，日本では 2016 年（平成 28 年）に「薬剤耐性対策アクションプラン」を策定し，関係省庁が協力して様々な対策を講じている。

本県では昨年度，県内医療機関の感染症専門家等による茨城県薬剤耐性対策推進会議（以下，AMR 対策会議）を設置するなど，AMR 対策強化事業を開始した。今回，県民に対して実施したアンケート調査結果を報告するとともに，本県における普及啓発事業を紹介する。

2　調査方法

いばらきネットモニター制度（茨城県総務部知事公室報道・広聴課所管）の県内モニターに対して，令和元年 11 月 11 日から 24 日まで（14 日間），アンケート「抗菌薬等に関する意識調査」を実施した。

3　調査結果

県内モニター564 名のうち 278 名（49.3%）から回答が得られた。

抗菌薬の認知度は非常に高い（98.6%）が，その効果について「ウイルスが増えるのを抑える」など誤った認識を持つ方が多くいることが分かった（図）。また，かぜで医療機関を受診したとき，抗菌薬の処方を希望する方が多くいる（34.2%）ことが分かった。

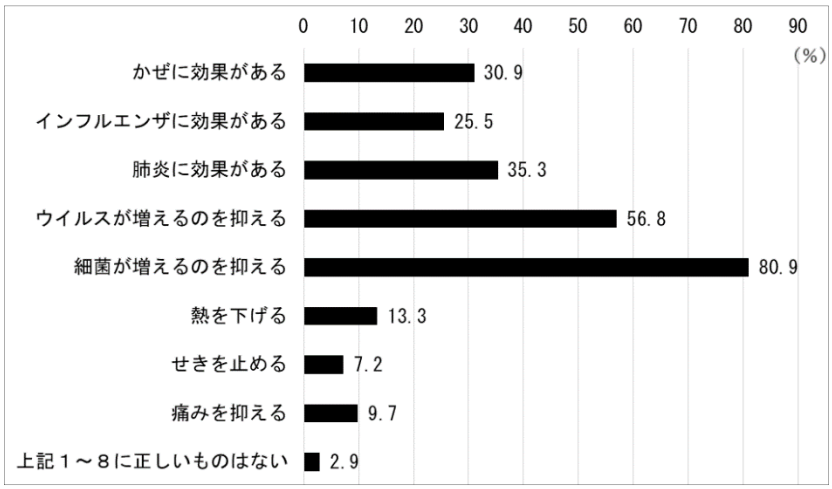

図　問）抗菌薬の効果について正しいと思うものを選べ（複数回答可）

一方，AMR の認知度は，抗菌薬と比べて低い（76.6%）ことが分かった。

4　まとめ

アンケート結果から，県民への啓発は基礎的な情報の周知から始める必要があると考察した。この結果を踏まえて AMR 対策会議で啓発方法について議論を重ね，今年度，県民向け啓発ポスターを作成した。ポスターは県内の病院，薬局をはじめ，関係機関等（約 8,000 か所）に配付している。

今後，医師向け研修会の開催など，多角的に啓発を行い，AMR 対策の一翼を担いたい。